

調査の概要

1 調査の目的

看護職員確保のために、職場環境づくり等に取り組んでいる施設の実態を調査し、看護職員の離職防止・定着促進のための対策の基礎資料とする。

2 調査主体

広島県 【調査実施：公益社団法人広島県看護協会(委託)】

3 調査の時期

令和3年12月15日～令和4年1月19日

4 調査対象及び調査方法

県内の全病院である235病院(令和3年9月30日現在)を母集団として、病院の看護管理者(看護部長等)を対象に自記式調査票(Ⅲ参考資料 資料1, 資料2)を郵送し、返信用封筒により回収した。

5 回収数及び有効回答

回収数及び有効回答

調査客体 (a)	回収数 (b)	回収率 (b) / (a)	有効回答数 (c)	有効回答率 (c) / (b)
235	193	82%	193	100%

6 本文の表し方

- 看護職員は、保健師、助産師、看護師及び准看護師をいう。
- 正規職員とは、雇用の形態が無期雇用かつ直接雇用であり、原則としてフルタイム勤務の職員をいう。なお、常勤、非常勤は勤務時間により区分するもので、常勤職員はフルタイムで働く職員のことをいう。
- 新卒とは、看護師等免許取得後1年以内をいう。
- 回答率(項目の回答の百分比)は、小数点第2位を四捨五入した。
- 本文、統計表等で用いた記号等の意味は、主に以下のとおりである。
 - 「n」はその質問に対する回答数であり比率算出の基数である。
 - 統計図表の「-」は計数がないことを示す。「0」は、計数はあるが四捨五入をして0であることを示す。
- 離職率の算出は次の計算による。
 - $\text{正規看護職員離職率} = \text{当該年度退職者数} / \text{当該年度平均正規職員数} \times 100$
▶ $\text{平均正規職員数} = (\text{年度当初の在籍職員数} + \text{年度末の在籍職員数}) / 2$
 - $\text{正規以外看護職員離職率} = \text{当該年度退職者数} / \text{当該年度平均正規以外職員数} \times 100$
▶ $\text{平均正規以外職員数} = (\text{年度当初の在籍職員数} + \text{年度末の在籍職員数}) / 2$
 - $\text{新卒離職率} = \text{当該年度の新卒退職者数} / \text{当該年度の新卒採用者数} \times 100$

II 調査結果

1 病院の概要

令和3年4月1日現在の病院の概要は次のとおりであった。

1) 設置主体別病院数

設置主体別で最も多いのは、「医療法人」130病院(67.4%)、次いで「県市町」16病院(8.3%)であった。(表1)

表1 設置主体別病院数

(単位：病院(%))

設置主体	病院数	備考
計	193 (100.0)	
国公立大学法人	1 (0.5)	
独立行政法人	12 (6.2)	
県市町	16 (8.3)	都道府県=5, 市町村=11,
その他公的医療機関	8 (4.1)	日赤=3, 厚生連=3, 済生会=2
医療法人	130 (67.4)	
個人	5 (2.6)	
会社	4 (2.1)	
その他の法人	8 (4.1)	社会福祉法人=4, 医師会=2, 医療センター=1, 一般財団法人=1
その他	9 (4.7)	共済組合及びその連合会=4, 医療生協=3, 健康保険組合及びその連合会=1, 防衛省=1

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

2) 保健医療圏域別病院数

保健医療圏域別で最も多いのは、「広島」74病院(38.3%)、次いで「福山・府中」40病院(20.7%)であった。(表2)

表2 保健医療圏域別病院数

(単位：病院(%))

保健医療圏域	病院数
計	193 (100.0)
広島	74 (38.3)
広島西	9 (4.7)
呉	24 (12.4)
広島中央	18 (9.3)
尾三	19 (9.8)
福山・府中	40 (20.7)
備北	9 (4.7)

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

3) 稼働病床規模別病院数

稼働病床（以下「病床」という。）規模別で最も多いのは、「100床～199床」が71病院（36.8%）、次いで「99床以下」が70病院（36.3%）で、200床未満が全体の73.1%であった。（表3）

表3 病床規模別病院数
（単位：病院（%））

病床規模	病院数
計	193 (100.0)
99床以下	70 (36.3)
100～199床	71 (36.8)
200～299床	24 (12.4)
300～399床	16 (8.3)
400～499床	4 (2.1)
500床以上	8 (4.1)

注 割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

2 看護職員の状況

令和3年4月1日現在の看護職員の状況は次のとおりであった。

1) 正規・正規以外別・職種別看護職員数（実人員・換算数）

正規・正規以外別・職種別看護職員数の実人員は24,039人で、「正規」21,628人（90.0%）、「正規以外」2,411人（10.0%）であった。（表4-①）

換算数は22,465.7人で、「正規」20,680.1人（92.1%）、「正規以外」1,785.6人（7.9%）であった。（表4-②）

表4-① 正規・正規以外別・職種別 看護職員数（実人員）

（単位：人（%））

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	24,039 (100.0)	118 (0.5)	526 (2.2)	20,931 (87.1)	2,464 (10.3)
正規	21,628 (90.0)	101 (0.4)	488 (2.0)	19,105 (79.5)	1,934 (8.0)
（男性）	2,565 (10.7)	10 (0.0)		2,324 (9.7)	231 (1.0)
正規以外	2,411 (10.0)	17 (0.1)	38 (0.2)	1,826 (7.6)	530 (2.2)

注 割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

表4-② 正規・正規以外別・職種別 看護職員数（換算数）

（単位：人（%））

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	22,465.7 (100.0)	92.1 (0.4)	481.3 (2.1)	19,626.4 (87.4)	2,265.9 (10.1)
正規	20,680.1 (92.1)	80.1 (0.4)	453.3 (2.0)	18,253.0 (81.2)	1,893.7 (8.4)
正規以外	1,785.6 (7.9)	12.0 (0.1)	28.0 (0.1)	1,373.4 (6.1)	372.2 (1.7)

注 割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

2) 保健医療圏域別・職種別看護職員数（実人員・換算数）

保健医療圏域別・職種別看護職員の实人員で最も多いのは「広島」10,875人(45.2%)、職種別では「看護師」9,679人(40.3%)、次いで「福山・府中」4,196人(17.5%)、職種別では「看護師」3,511人(14.6%)であった。(表5-①)

換算数で見ると、最も多いのは「広島」10,092.1人(44.9%)、職種別では「看護師」9,016.3人(40.1%)、次いで「福山・府中」3,845.6人(17.1%)、職種別では「看護師」3,215.2人(14.3%)であった。(表5-②)また、看護職員の正規の实人員・換算数でも同様の傾向であった。(表5-③)(表5-④)

表5-① 保健医療圏域別・職種別 看護職員数（実人員）

(単位：人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	24,039 (100.0)	118 (0.5)	526 (2.2)	20,931 (87.1)	2,464 (10.3)
広島	10,875 (45.2)	66 (0.3)	251 (1.0)	9,679 (40.3)	879 (3.7)
広島西	1,457 (6.1)	6 (0.0)	28 (0.1)	1,342 (5.6)	81 (0.3)
呉	2,540 (10.6)	24 (0.1)	64 (0.3)	2,156 (9.0)	296 (1.2)
広島中央	1,884 (7.8)	1 (0.0)	30 (0.1)	1,649 (6.9)	204 (0.8)
尾三	2,207 (9.2)	12 (0.0)	40 (0.2)	1,879 (7.8)	276 (1.1)
福山・府中	4,196 (17.5)	3 (0.0)	82 (0.3)	3,511 (14.6)	600 (2.5)
備北	880 (3.7)	6 (0.0)	31 (0.1)	715 (3.0)	128 (0.5)

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

表5-② 保健医療圏域別・職種別 看護職員数（換算数）

(単位：人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	22,465.7 (100.0)	92.1 (0.4)	481.3 (2.1)	19,626.4 (87.4)	2,265.9 (10.1)
広島	10,092.1 (44.9)	46.5 (0.2)	226.4 (1.0)	9,016.3 (40.1)	802.9 (3.6)
広島西	1,418.3 (6.3)	6.0 (0.0)	27.9 (0.1)	1,311.1 (5.8)	73.3 (0.3)
呉	2,359.0 (10.5)	21.7 (0.1)	58.3 (0.3)	2,006.5 (8.9)	272.5 (1.2)
広島中央	1,805.2 (8.0)	0.5 (0.0)	29.1 (0.1)	1,582.0 (7.0)	193.6 (0.9)
尾三	2,113.2 (9.4)	10.2 (0.0)	35.8 (0.2)	1,817.5 (8.1)	249.7 (1.1)
福山・府中	3,845.6 (17.1)	3.0 (0.0)	74.0 (0.3)	3,215.2 (14.3)	553.4 (2.5)
備北	832.3 (3.7)	4.2 (0.0)	29.8 (0.1)	677.8 (3.0)	120.5 (0.5)

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

表 5-③ 保健医療圏域別・職種別 看護職員数（正規の実人員）

（単位：人（％））

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	21,628 (100.0)	101 (0.5)	488 (2.3)	19,105 (88.3)	1,934 (8.9)
広島	9,849 (45.5)	58 (0.3)	235 (1.1)	8,862 (41.0)	694 (3.2)
広島西	1,360 (6.3)	5 (0.0)	27 (0.1)	1,270 (5.9)	58 (0.3)
呉	2,245 (10.4)	21 (0.1)	63 (0.3)	1,935 (8.9)	226 (1.0)
広島中央	1,704 (7.9)	—	29 (0.1)	1,514 (7.0)	161 (0.7)
尾三	1,951 (9.0)	10 (0.0)	34 (0.2)	1,691 (7.8)	216 (1.0)
福山・府中	3,762 (17.4)	3 (0.0)	77 (0.4)	3,201 (14.8)	481 (2.2)
備北	757 (3.5)	4 (0.0)	23 (0.1)	632 (2.9)	98 (0.5)

注 割合（％）の合計は四捨五入のため100%にならない

表 5-④ 保健医療圏域別・職種別 看護職員数（正規の換算数）

（単位：人（％））

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	20,680.1 (100.0)	80.1 (0.4)	453.3 (2.2)	18,253.0 (88.3)	1,893.7 (9.2)
広島	9,315.5 (45.0)	40.1 (0.2)	212.8 (1.0)	8,384.8 (40.5)	677.8 (3.3)
広島西	1,341.0 (6.5)	5.0 (0.0)	26.9 (0.1)	1,253.0 (6.1)	56.1 (0.3)
呉	2,149.6 (10.4)	20.0 (0.1)	57.5 (0.3)	1,848.4 (8.9)	223.7 (1.1)
広島中央	1,669.9 (8.1)	—	28.3 (0.1)	1,481.0 (7.2)	160.6 (0.8)
尾三	1,927.0 (9.3)	9.0 (0.0)	34.0 (0.2)	1,675.4 (8.1)	208.6 (1.0)
福山・府中	3,541.8 (17.1)	3.0 (0.0)	70.8 (0.3)	2,997.1 (14.5)	470.9 (2.3)
備北	735.3 (3.6)	3.0 (0.0)	23.0 (0.1)	613.3 (3.0)	96.0 (0.5)

注 割合（％）の合計は四捨五入のため100%にならない

3) 病床規模別・職種別看護職員数（実人員・換算数）

病床規模別に看護職員数の「実人員」をみると、最も多いのは「100～199床」6,188人(25.7%)、次いで「500床以上」6,069人(25.2%)であった。また職種別にみると、最も多いのは「500床以上」の「看護師」で5,794人(24.1%)であった。(表6-①)

「換算数」でみると、最も多いのは「100～199床」5,731.1人(25.5%)、次いで「500床以上」5,599.8人(24.9%)であった。また職種別にみると、最も多いのは「500床以上」の「看護師」で5,351.0人(23.8%)であった。(表6-②) 病床規模別に「正規の実人員」をみると、最も多いのは「500床以上」5,747人(26.6%)、次いで「100～199床」5,307人(24.5%)であった。また、職種別にみると最も多いのは「500床以上」の「看護師」で5,483人(25.4%)であった。(表6-③)

「正規の換算数」をみると、最も多いのは「500床以上」5,327.7人(25.8%)、次いで「100～199床」5,123.1人(24.8%)であった。また、職種別にみると最も多いのは「500床以上」の「看護師」で5,088.0人(24.6%)であった。(表6-④)

表6-① 病床規模別・職種別 看護職員数（実人員）

(単位：人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	24,039 (100.0)	118 (0.5)	526 (2.2)	20,931 (87.1)	2,464 (10.3)
99床以下	2,654 (11.0)	5 (0.0)	34 (0.1)	2,015 (8.4)	600 (2.5)
100～199床	6,188 (25.7)	47 (0.2)	4 (0.0)	5,122 (21.3)	1,015 (4.2)
200～299床	3,601 (15.0)	15 (0.1)	30 (0.1)	3,133 (13.0)	423 (1.8)
300～399床	3,988 (16.6)	44 (0.2)	141 (0.6)	3,413 (14.2)	390 (1.6)
400～499床	1,539 (6.4)	1 (0.0)	55 (0.2)	1,454 (6.0)	29 (0.1)
500床以上	6,069 (25.2)	6 (0.0)	262 (1.1)	5,794 (24.1)	7 (0.0)

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

表6-② 病床規模別・職種別 看護職員数（換算数）

(単位：人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	22,465.7 (100.0)	92.1 (0.4)	481.3 (2.1)	19,626.4 (87.4)	2,265.9 (10.1)
99床以下	2,442.5 (10.9)	3.4 (0.0)	31.6 (0.1)	1,868.9 (8.3)	538.6 (2.4)
100～199床	5,731.1 (25.5)	27.1 (0.1)	2.8 (0.0)	4,787.3 (21.3)	913.9 (4.1)
200～299床	3,402.3 (15.1)	14.8 (0.1)	27.2 (0.1)	2,950.0 (13.1)	410.3 (1.8)
300～399床	3,780.7 (16.8)	40.3 (0.2)	128.2 (0.6)	3,240.3 (14.4)	371.9 (1.7)
400～499床	1,509.3 (6.7)	0.5 (0.0)	54.7 (0.2)	1,428.9 (6.4)	25.2 (0.1)
500床以上	5,599.8 (24.9)	6.0 (0.0)	236.8 (1.1)	5,351.0 (23.8)	6.0 (0.0)

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

表 6-③ 病床規模別・職種別 看護職員数（正規の実人員）

（単位：人（％））

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	21,628 (100.0)	101 (0.5)	488 (2.3)	19,105 (88.3)	1,934 (8.9)
99床以下	2,242 (10.4)	3 (0.0)	28 (0.1)	1,758 (8.1)	453 (2.1)
100～199床	5,307 (24.5)	40 (0.2)	3 (0.0)	4,488 (20.8)	776 (3.6)
200～299床	3,161 (14.6)	14 (0.1)	26 (0.1)	2,777 (12.8)	344 (1.6)
300～399床	3,737 (17.3)	39 (0.2)	123 (0.6)	3,234 (15.0)	341 (1.6)
400～499床	1,434 (6.6)	—	54 (0.2)	1,365 (6.3)	15 (0.1)
500床以上	5,747 (26.6)	5 (0.0)	254 (1.2)	5,483 (25.4)	5 (0.0)

注 割合（％）の合計は四捨五入のため100%にならない

表 6-④ 病床規模別・職種別 看護職員数（正規の換算数）

（単位：人（％））

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	20,680.1 (100.0)	80.1 (0.4)	453.3 (2.2)	18,253.0 (88.3)	1,893.7 (9.2)
99床以下	2,166.4 (10.5)	2.0 (0.0)	27.0 (0.1)	1,695.9 (8.2)	441.5 (2.1)
100～199床	5,123.1 (24.8)	22.5 (0.1)	2.3 (0.0)	4,340.2 (21.0)	758.1 (3.7)
200～299床	3,057.2 (14.8)	13.8 (0.1)	24.6 (0.1)	2,676.6 (12.9)	342.2 (1.7)
300～399床	3,582.3 (17.3)	36.8 (0.2)	115.8 (0.6)	3,097.8 (15.0)	331.9 (1.6)
400～499床	1,423.4 (6.9)	—	53.9 (0.3)	1,354.5 (6.5)	15.0 (0.1)
500床以上	5,327.7 (25.8)	5.0 (0.0)	229.7 (1.1)	5,088.0 (24.6)	5.0 (0.0)

注 割合（％）の合計は四捨五入のため100%にならない

4) 正規看護職員数の推移（実人員・換算数）

正規看護職員の推移をみると、令和3年度は令和2年度に比べ「実人員」は113人減少した。「保健師」は0人、「助産師」は10人、「准看護師」は133人減少した。（表7）「看護師」は実人員では30人増え、換算数も386.1人増加している。

表 7 正規看護職員数の推移

（単位：人）

年度	令和2年4月1日現在					令和3年4月1日現在				
	計	保健師	助産師	看護師	准看護師	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
実人員	21,741	101	498	19,075	2,067	21,628	101	488	19,105	1,934
対前年度						▲ 113	0	▲ 10	30	▲ 133
換算数	20,438.5	96.2	459.4	17,866.9	2,016.0	20,680.1	80.1	453.3	18,253.0	1,893.7
対前年度						241.6	▲ 16.1	▲ 6.1	386.1	▲ 122.3

3 令和3年度採用状況

令和3年4月1日から4月30日までの正規看護職員の採用状況は次のとおりである。

1) 新卒者・既卒者別採用状況

採用者数は1,449人で、その内訳は「新卒者」1,114人(76.9%)、「既卒者」335人(23.1%)であった。(表8)

表8 新卒者・既卒者別・職種別採用者数

(単位：人(%))

区分	計		保健師		助産師		看護師		准看護師	
計	1,449	(100.0)	2	(0.1)	40	(2.8)	1,309	(90.3)	98	(6.8)
新卒者	1,114	(76.9)	1	(0.1)	33	(2.3)	1,013	(69.9)	67	(4.6)
既卒者	335	(23.1)	1	(0.1)	7	(0.5)	296	(20.4)	31	(2.1)

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

2) 保健医療圏域別採用状況

保健医療圏域別の採用状況をみると、新卒者の採用が最も多かったのは「広島」で549人(49.3%)、次いで「福山・府中」173人(15.5%)であった。一方、最も低かったのは「備北」26人(2.3%)であった。既卒者の採用が最も多かったのは「広島」で161人(48.1%)、次いで「福山・府中」64人(19.1%)であった。一方、最も低かったのは「広島西」で11人(3.3%)であった。(表9)

表9 保健医療圏域別・新卒者・既卒者別採用状況

(単位：人(%))

区分	計		保健師		助産師		看護師		准看護師	
	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者
計	1,114 (100.0)	335 (100.0)	1 (0.1)	1 (0.3)	33 (3.0)	7 (2.1)	1,013 (90.9)	296 (88.4)	67 (6.0)	31 (9.3)
広島	549 (49.3)	161 (48.1)	1 (0.1)	—	13 (1.2)	4 (1.2)	511 (45.9)	142 (42.4)	24 (2.2)	15 (4.5)
広島西	100 (9.0)	11 (3.3)	—	—	—	—	95 (8.5)	11 (3.3)	5 (0.4)	—
呉	161 (14.5)	28 (8.4)	—	1 (0.3)	6 (0.5)	—	142 (12.7)	24 (7.2)	13 (1.2)	3 (0.9)
広島中央	77 (6.9)	34 (10.1)	—	—	3 (0.3)	—	69 (6.2)	31 (9.3)	5 (0.4)	3 (0.9)
尾三	28 (2.5)	23 (6.9)	—	—	1 (0.1)	—	22 (2.0)	21 (6.3)	5 (0.4)	2 (0.6)
福山・府中	173 (15.5)	64 (19.1)	—	—	8 (0.7)	2 (0.6)	150 (13.5)	55 (16.4)	15 (1.3)	7 (2.1)
備北	26 (2.3)	14 (4.2)	—	—	2 (0.2)	1 (0.3)	24 (2.2)	12 (3.6)	—	1 (0.3)

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

4 正規・常勤看護職員の状況

1) 正規看護職員の平均年齢（令和2年度）

令和2年4月1日現在の平均年齢は41.9歳で、平均年齢が最も低い病院は30.0歳、最も高い病院は58.2歳であった。（表10-①）

平均年齢を保健医療圏域別にみると、「広島」で「35～39歳」が最も多く、「広島西」で「30～34歳」「40～44歳」が最も多く、「呉」「広島中央」「尾三」「福山・府中」「備北」すべての医療圏域で「40～44歳」が最も多かった。（表10-②）

平均年齢を病床規模別にみると、「99床以下」では「40～44歳」「45～49歳」が最も多く、「100～199床」「200～299床」では「40～44歳」が最も多く、「300～399床」では「35～39歳」「45～49歳」が最も多く、「400～499床」では「30～34歳」が最も多く、「500床以上」では「35～39歳」が最も多かった。（表10-③）

表10-① 平均年齢（正規）

平均年齢	最も低い	最も高い
41.9歳	30.0歳	58.2歳

注 令和2年4月1日現在の実績

表10-② 平均年齢別・保健医療圏域別 病院数（正規）

（単位：病院（%））

区分	計	広島	広島西	呉	広島中央	尾三	福山・府中	備北
計	192 (100.0)	74 (38.5)	9 (4.7)	24 (12.5)	18 (9.4)	18 (9.4)	40 (20.8)	9 (4.7)
～29歳	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
30～34歳	18 (9.4)	7 (3.6)	3 (1.6)	3 (1.6)	1 (0.5)	— —	4 (2.1)	— —
35～39歳	48 (25.0)	29 (15.1)	0 (0.0)	2 (1.0)	2 (1.0)	3 (1.6)	11 (5.7)	1 (0.5)
40～44歳	75 (39.1)	25 (13.0)	3 (1.6)	11 (5.7)	8 (4.2)	10 (5.2)	13 (6.8)	5 (2.6)
45～49歳	44 (22.9)	11 (5.7)	2 (1.0)	7 (3.6)	7 (3.6)	4 (2.1)	10 (5.2)	3 (1.6)
50～54歳	6 (3.1)	2 (1.0)	1 (0.5)	— —	— —	1 (0.5)	2 (1.0)	— —
55歳以上	1 (0.5)	— —	— —	1 (0.5)	— —	— —	— —	— —

注1 令和2年4月1日現在の実績

注2 割合（%）の合計は四捨五入のため100%にならない

表 10-③ 平均年齢別・病床規模別 病院数（正規）

（単位：病院（％））

区分	計	99床以下	100～199床	200～299床	300～399床	400～499床	500床以上
計	192 (100.0)	69 (35.9)	71 (37.0)	24 (12.5)	16 (8.3)	4 (2.1)	8 (4.2)
～29歳	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
30～34歳	18 (9.4)	2 (1.0)	5 (2.6)	3 (1.6)	2 (1.0)	3 (1.6)	3 (1.6)
35～39歳	48 (25.0)	14 (7.3)	18 (9.4)	5 (2.6)	5 (2.6)	1 (0.5)	5 (2.6)
40～44歳	75 (39.1)	25 (13.0)	36 (18.8)	10 (5.2)	4 (2.1)	— —	— —
45～49歳	44 (22.9)	25 (13.0)	10 (5.2)	4 (2.1)	5 (2.6)	— —	— —
50～54歳	6 (3.1)	3 (1.6)	1 (0.5)	2 (1.0)	— —	— —	— —
55歳以上	1 (0.5)	— —	1 (0.5)	— —	— —	— —	— —

注 1 令和 2 年 4 月 1 日現在の実績

注 2 割合（％）の合計は四捨五入のため 100%にならない

2) 常勤看護職員の時間外勤務

(1) 時間外勤務時間の平均と最長

一人当たり月平均時間外勤務時間は 4.0 時間，最長は 80.1 時間であった。（表 11）

表 11 一人当たり月平均時間外勤務時間（常勤）

平均	最長
4.0 時間	80.1 時間

注 令和 3 年 10 月の実績である

(2) 時間外勤務時間数・病床規模別病院数の割合

病床規模別一人当たり月平均の時間外勤務時間数をみると、最も多かったのは「4時間未満」で118病院(61.1%)、次いで「4～8時間未満」で46病院(23.8%)であった。病床規模別の割合をみると「4時間未満」では「99床以下」、「4～8時間未満」では「99床以下」「100～199床」の割合が高かった。

(表12-①)

最長の時間外勤務時間数別病院数をみると、最も多かったのは「20時間以上」で69病院(35.8%)、次いで「4時間未満」で43病院(22.3%)であった。病床規模別の割合をみると「400～499床」ではすべての病院が「20時間以上」であった。(表12-②)

「20時間以上」の内訳をみると、最も多かったのは「20～25時間未満」で21病院(30.4%)であった。(表12-③)

表12-① 病床規模別一人当たり月平均時間外勤務時間(常勤)

(単位:病院(%))

区分	計	4時間未満	4～8時間 未満	8～12時間 未満	12～16時間 未満	16～20時間 未満	20時間 以上
計	193 (100.0)	118 (61.1)	46 (23.8)	19 (9.8)	8 (4.1)	— —	2 (1.0)
99床以下	70 (36.3)	47 (24.4)	15 (7.8)	7 (3.6)	1 (0.5)	— —	— —
100～199床	71 (36.8)	46 (23.8)	15 (7.8)	5 (2.6)	4 (2.1)	— —	1 (0.5)
200～299床	24 (12.4)	15 (7.8)	6 (3.1)	1 (0.5)	1 (0.5)	— —	1 (0.5)
300～399床	16 (8.3)	8 (4.1)	5 (2.6)	2 (1.0)	1 (0.5)	— —	— —
400～499床	4 (2.1)	1 (0.5)	2 (1.0)	1 (0.5)	— —	— —	— —
500床以上	8 (4.1)	1 (0.5)	3 (1.6)	3 (1.6)	1 (0.5)	— —	— —

注1 令和3年10月の実績である

注2 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

表 12-② 病床規模別一人当たり時間外勤務時間の最長時間数（常勤）

（単位：病院（％））

区分	計	4時間未満	4～8時間 未満	8～12時間 未満	12～16時間 未満	16～20時間 未満	20時間以上
計	193 (100.0)	43 (22.3)	18 (9.3)	26 (13.5)	18 (9.3)	19 (9.8)	69 (35.8)
99床以下	70 (36.3)	23 (11.9)	4 (2.1)	13 (6.7)	7 (3.6)	9 (4.7)	14 (7.3)
100～199床	71 (36.8)	10 (5.2)	10 (5.2)	11 (5.7)	8 (4.1)	5 (2.6)	27 (14.0)
200～299床	24 (12.4)	9 (4.7)	2 (1.0)	2 (1.0)	1 (0.5)	2 (1.0)	8 (4.1)
300～399床	16 (8.3)	1 (0.5)	2 (1.0)	— —	2 (1.0)	2 (1.0)	9 (4.7)
400～499床	4 (2.1)	— —	— —	— —	— —	— —	4 (2.1)
500床以上	8 (4.1)	— —	— —	— —	— —	1 (0.5)	7 (3.6)

注1 令和3年10月の実績である

注2 割合（％）の合計は四捨五入のため100%にならない

表 12-③ 病床規模別一人当たり時間外勤務時間（最長20時間以上）（常勤）

（単位：病院（％））

区分	計	20～25時間 未満	25～30時間 未満	30～40時間 未満	40～50時間 未満	50～60時間 未満	60時間以上
計	69 (100.0)	21 (30.4)	16 (23.2)	20 (29.0)	9 (13.0)	1 (1.4)	2 (2.9)
99床以下	14 (20.3)	9 (13.0)	3 (4.3)	2 (2.9)	— —	— —	— —
100～199床	27 (39.1)	7 (10.1)	4 (5.8)	8 (11.6)	5 (7.2)	1 (1.4)	2 (2.9)
200～299床	8 (11.6)	1 (1.4)	3 (4.3)	3 (4.3)	1 (1.4)	— —	— —
300～399床	9 (13.0)	3 (4.3)	2 (2.9)	3 (4.3)	1 (1.4)	— —	— —
400～499床	4 (5.8)	1 (1.4)	2 (2.9)	1 (1.4)	— —	— —	— —
500床以上	7 (10.1)	— —	2 (2.9)	3 (4.3)	2 (2.9)	— —	— —

注1 令和3年10月の実績である

注2 割合（％）の合計は四捨五入のため100%にならない

3) 正規看護職員の年次有給休暇取得状況

(1) 一人平均取得日数

令和2年度における年次有給休暇の一人平均取得日数の平均は11.0日、最多が24.8日、最少が0.0日であった。平均で見ると平成27年度まで変動がなかったが、平成28年度から再び増加した。(表13)

表13 年次有給休暇一人平均取得日数の推移

区分	平均	最多	最少
令和2年度	11.0日	24.8日	0.0日
令和元年度	11.2日	23.9日	1.0日
平成30年度	10.4日	19.9日	0.8日
平成29年度	10.2日	20.3日	1.0日
平成28年度	10.1日	24.2日	0.0日
平成27年度	9.9日	20.8日	0.0日
平成26年度	9.9日	26.0日	0.8日
平成25年度	9.9日	41.6日	0.2日

(2) 時間単位の取得

令和2年度における年次有給休暇が時間単位で取得できる病院は152病院(78.8%)であった。割合で見ると平成25年度より年々高くなっていった。(表14)

表14 年次有給休暇，時間単位の取得病院数

区分	計		できる		できない	
令和2年	193	(100.0)	152	(78.8)	41	(21.2)
令和元年	191	(100.0)	150	(78.5)	41	(21.5)
平成30年	185	(100.0)	144	(77.8)	41	(22.2)
平成29年	185	(100.0)	143	(77.3)	42	(22.7)
平成28年	190	(100.0)	144	(75.8)	46	(24.2)
平成27年	189	(100.0)	136	(72.0)	53	(28.0)
平成26年	191	(100.0)	88	(46.1)	103	(53.9)
平成25年	209	(100.0)	96	(45.9)	113	(54.1)

5 勤務形態からみた夜勤回数別夜勤人数

1) 常勤看護職員夜勤人数等

「3交代(変則3交代含む)」で夜勤回数0回の施設は49病院の1,414人、最も多かったのは夜勤回数7回以下で66病院の2,315人であった。「2交代(変則2交代含む)」で夜勤回数0回の施設は112病院の1,861人、最も多かったのは夜勤回数4回で141病院の2,170人であった。(表15-①, 表15-②, 表15-③)

表15-① 常勤看護職員 勤務形態別夜勤回数(複数回答)

区分	3交代(変則3交代含む)						2交代(変則2交代含む)				
	0回	7回以下	8回	9回	10回	11回以上	0回	3回以下	4回	5回	6回以上
病院数	49	66	62	59	51	38	112	135	141	137	117
人数	1,414	2,315	1,812	1,233	722	451	1,861	1,453	2,170	2,154	1,428

注1 常勤看護職員夜勤人数は「新卒含む/夜勤専従者を除く」数字である。

注2 人数は、交代制勤務の指定夜勤回数に該当する看護職員数である。

注3 夜勤回数は令和3年10月実績である。

表15-② 病床規模別常勤看護職員 勤務形態別夜勤回数(複数回答)

(単位: 病院)

区分	3交代(変則3交代含む)						2交代(変則2交代含む)				
	0回	7回以下	8回	9回	10回	11回以上	0回	3回以下	4回	5回	6回以上
計	49	66	62	59	51	38	112	135	141	137	117
99床以下	9	13	10	10	9	7	38	46	51	49	40
100~199床	13	20	18	16	15	13	47	55	56	58	54
200~299床	11	14	14	13	12	10	13	17	18	16	11
300~399床	6	8	8	8	7	3	11	12	11	10	10
400~499床	4	4	4	4	2	1	1	1	1	—	—
500床以上	6	7	8	8	6	4	2	4	4	4	2

表15-③ 病床規模別常勤看護職員 勤務形態別夜勤人数(複数回答)

(単位: 人)

区分	3交代(変則3交代含む)						2交代(変則2交代含む)				
	0回	7回以下	8回	9回	10回	11回以上	0回	3回以下	4回	5回	6回以上
計	1,414	2,315	1,812	1,233	722	451	1,861	1,453	2,170	2,154	1,428
99床以下	62	122	79	59	31	58	315	168	285	330	246
100~199床	181	198	174	165	101	116	850	469	586	702	676
200~299床	169	309	189	182	165	104	233	193	281	323	207
300~399床	238	609	497	177	62	24	379	208	348	357	201
400~499床	231	344	280	157	54	28	9	70	62	—	—
500床以上	533	733	593	493	309	121	75	345	608	442	98

2) 夜勤専従者の有無

夜勤専従者がいる病院は 77 病院 (39.9%)、「正規看護職員のみ」が 51 病院 (26.4%)、「正規以外看護職員のみ」が 15 病院 (7.8%)、「正規・正規以外看護職員」が 11 病院 (5.7%)であった。夜勤専従者数は、「実人員」が 852 人、「延べ人員」が「3 交代(変則 3 交代含む)」は 9,138 人、「2 交代(変則 2 交代含む)」は 18,611 人であった。(表 16-①, 表 16-②)

表 16-① 夜勤専従者の有無

(単位：病院 (%))

区分	計	夜勤専従者がいる	夜勤専従者がいない
計	193 (100.0)	77 (39.9)	116 (60.1)
正規看護職員のみ	/	51 (26.4)	116 (60.1)
正規以外看護職員のみ		15 (7.8)	
正規・正規以外看護職員		11 (5.7)	

注 1 令和 2 年度の実績である

注 2 割合 (%) の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 16-② 夜勤専従者の人数

(単位：人)

区分	実人員	延べ回数		
		3 交代 (変則 3 交代含む)	2 交代 (変則 2 交代含む)	
計	852	9,138	18,611	
正規看護職員のみ	728	6,392	15,566	
正規以外看護職員のみ	50	891	1,256	
正規・正規以外 看護職員	正規看護職員	51	1,672	1,013
	正規以外看護職員	23	183	776

注 令和 2 年度の実績である

6 看護職員の採用状況

令和2年度の正規看護職員の採用状況は次のとおりである。

1) 看護職員採用者数

採用者数は2,424人で、内訳をみると「正規看護職員」が「新卒者」1,106人(45.6%)、「既卒者」977人(40.3%)、「正規看護職員以外」は341人(14.1%)であった。(表17)

表17 新卒者・既卒者別・職種別 採用者数(令和2年度)

(単位:人(%))

区分		計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計		2,424 (100.0)	6 (0.2)	56 (2.3)	2,085 (86.0)	277 (11.4)
正規看護職員	新卒者数	1,106 (45.6)	2 (0.1)	34 (1.4)	998 (41.2)	72 (3.0)
	既卒者数	977 (40.3)	2 (0.1)	14 (0.6)	838 (34.6)	123 (5.1)
正規看護職員以外		341 (14.1)	2 (0.1)	8 (0.3)	249 (10.3)	82 (3.4)

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

2) 正規看護職員採用者数

(1) 保健医療圏域別採用者数

採用者数は「新卒者」が1,106人、「既卒者」が977人で、保健医療圏域別にみると、最も多かったのは「広島」で「新卒者」541人(48.9%)、「既卒者」454人(46.5%)であった。(表18)

表18 保健医療圏域別・新卒者・既卒者別 正規看護職員採用状況(令和2年度)

(単位:人(%))

区分	計		保健師		助産師		看護師		准看護師	
	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者
計	1,106 (100.0)	977 (100.0)	2 (0.2)	2 (0.2)	34 (3.1)	14 (1.4)	998 (90.2)	838 (85.8)	72 (6.5)	123 (12.6)
広島	541 (48.9)	454 (46.5)	1 (0.1)	—	19 (1.7)	3 (0.3)	488 (44.1)	406 (41.6)	33 (3.0)	45 (4.6)
広島西	120 (10.8)	47 (4.8)	—	—	—	—	118 (10.7)	45 (4.6)	2 (0.2)	2 (0.2)
呉	141 (12.7)	98 (10.0)	1 (0.1)	—	5 (0.5)	2 (0.2)	132 (11.9)	79 (8.1)	3 (0.3)	17 (1.7)
広島中央	49 (4.4)	91 (9.3)	—	—	2 (0.2)	1 (0.1)	43 (3.9)	73 (7.5)	4 (0.4)	17 (1.7)
尾三	55 (5.0)	78 (8.0)	—	1 (0.1)	2 (0.2)	2 (0.2)	44 (4.0)	62 (6.3)	9 (0.8)	13 (1.3)
福山・府中	166 (15.0)	188 (19.2)	—	1 (0.1)	4 (0.4)	6 (0.6)	141 (12.7)	153 (15.7)	21 (1.9)	28 (2.9)
備北	34 (3.1)	21 (2.1)	—	—	2 (0.2)	—	32 (2.9)	20 (2.0)	—	1 (0.1)

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

(2) 病床規模別採用者数

病床規模別に採用者数をみると、「新卒者」で最も多かったのは「500床以上」で390人(35.3%)、「既卒者」で最も多かったのは「100～199床」で415人(42.5%)であった。(表19)

表19 病床規模別・新卒者・既卒者別 正規看護職員採用状況(令和2年度)

(単位:人(%))

区分	計		保健師		助産師		看護師		准看護師	
	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者	新卒者	既卒者
計	1,106 (100.0)	977 (100.0)	2 (0.2)	2 (0.2)	34 (3.1)	14 (1.4)	998 (90.2)	838 (85.8)	72 (6.5)	123 (12.6)
99床以下	35 (3.2)	243 (24.9)	— —	1 (0.1)	— —	2 (0.2)	25 (2.3)	202 (20.7)	10 (0.9)	38 (3.9)
100～199床	247 (22.3)	415 (42.5)	1 (0.1)	— —	— —	— —	198 (17.9)	362 (37.1)	48 (4.3)	53 (5.4)
200～299床	140 (12.7)	120 (12.3)	— —	1 (0.1)	1 (0.1)	1 (0.1)	128 (11.6)	102 (10.4)	11 (1.0)	16 (1.6)
300～399床	166 (15.0)	117 (12.0)	1 (0.1)	— —	10 (0.9)	2 (0.2)	153 (13.8)	99 (10.1)	2 (0.2)	16 (1.6)
400～499床	128 (11.6)	26 (2.7)	— —	— —	3 (0.3)	3 (0.3)	124 (11.2)	23 (2.4)	1 (0.1)	— —
500床以上	390 (35.3)	56 (5.7)	— —	— —	20 (1.8)	6 (0.6)	370 (33.5)	50 (5.1)	— —	— —

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

3) 正規以外看護職員採用者数

(1) 保健医療圏域別採用者数

採用者数は341人で、保健医療圏域別にみると、最も多かったのは「広島」で144人(42.2%)であった。(表20)

表 20 保健医療圏域別 正規以外看護職員採用状況（令和 2 年度）

（単位：人（％））

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	341 (100.0)	2 (0.6)	8 (2.3)	249 (73.0)	82 (24.0)
広島	144 (42.2)	— —	— —	118 (34.6)	26 (7.6)
広島西	21 (6.2)	— —	2 (0.6)	13 (3.8)	6 (1.8)
呉	40 (11.7)	1 (0.3)	1 (0.3)	25 (7.3)	13 (3.8)
広島中央	27 (7.9)	— —	— —	18 (5.3)	9 (2.6)
尾三	36 (10.6)	— —	1 (0.3)	26 (7.6)	9 (2.6)
福山・府中	58 (17.0)	— —	1 (0.3)	40 (11.7)	17 (5.0)
備北	15 (4.4)	1 (0.3)	3 (0.9)	9 (2.6)	2 (0.6)

注 割合（％）の合計は四捨五入のため 100%にならない

(2) 病床規模別採用者数

保健医療圏域別に採用者数をみると、最も多かったのは「100～199床」で 140 人(41.1%)であった。(表 21)

表 21 病床規模別 正規以外看護職員採用状況（令和 2 年度）

（単位：人（％））

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	341 (100.0)	2 (0.6)	8 (2.3)	249 (73.0)	82 (24.0)
99 床以下	51 (15.0)	— —	— —	30 (8.8)	21 (6.2)
100～199 床	140 (41.1)	1 (0.3)	— —	87 (25.5)	52 (15.2)
200～299 床	78 (22.9)	— —	— —	73 (21.4)	5 (1.5)
300～399 床	24 (7.0)	1 (0.3)	4 (1.2)	18 (5.3)	1 (0.3)
400～499 床	11 (3.2)	— —	— —	8 (2.3)	3 (0.9)
500 床以上	37 (10.9)	— —	4 (1.2)	33 (9.7)	— —

注 割合（％）の合計は四捨五入のため 100%にならない

7 看護職員の離職状況

令和2年度の正規看護職員の離職状況は次のとおりである。

1) 正規看護職員離職者数

正規看護職員の離職者数は1,993人、内訳をみると定年退職者は197人(9.9%)、新卒離職者は110人(5.5%)であった。定年退職・新卒離職者以外は1,686人(84.6%)であった。(表22)

表22 正規看護職員離職者数

(単位：人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
離職者数	1,993 (100.0)	9 (0.5)	32 (1.6)	1,667 (83.6)	285 (14.3)
(1) 定年退職者数 (定年退職者の割合)	197 (9.9)	1 (0.1)	4 (0.2)	138 (6.9)	54 (2.7)
(2) 新卒離職者数 (新卒離職者の割合)	110 (5.5)	— —	2 (0.1)	89 (4.5)	19 (1.0)
(3) (1), (2)以外離職者数 (1), (2)以外離職者の割合)	1,686 (84.6)	8 (0.4)	26 (1.3)	1,440 (72.3)	212 (10.6)

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

(1) 保健医療圏域別・職種別離職者数・離職率

離職者数は1,993人で、離職率は9.4%であった。保健医療圏域別にみると、離職者数が最も多かったのは「広島」906人、離職率が最も高かったのは「広島西」「呉」11.7%であった。(表23)

表23 保健医療圏域別・職種別 正規看護職員離職者数・離職率

(単位：人(%))

区分	計(離職率)	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	1,993 (9.4)	9	32	1,667	285
広島	906 (9.4)	5	16	763	122
広島西	156 (11.7)	1	2	138	15
呉	263 (11.7)	—	6	214	43
広島中央	154 (9.3)	—	3	123	28
尾三	129 (6.5)	2	—	104	23
福山・府中	331 (9.1)	1	5	281	44
備北	54 (6.8)	—	—	44	10

注 離職者数は定年退職者を含む

(2) 病床規模別・職種別離職者数・離職率

病床規模別にみると、離職者数が最も多かったのは「100～199床」583人であった。離職者率が最も高かったのは「400～499床」12.0%であった。(表24)

表24 病床規模別・職種別 正規看護職員離職者数・離職率

(単位：人(%))

区分	計 (離職率)	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	1,993 (9.4)	9	32	1,667	285
99床以下	263 (11.9)	2	3	184	74
100～199床	583 (11.3)	3	—	452	128
200～299床	271 (8.6)	1	3	223	44
300～399床	290 (7.9)	2	6	255	27
400～499床	168 (12.0)	—	5	152	11
500床以上	418 (7.4)	1	15	401	1

注 離職者数は定年退職者を含む

2) 定年退職者数

(1) 保健医療圏域別・職種別定年退職者数

定年退職者数は197人で、保健医療圏別にみると、最も多かったのは「広島」73人(37.1%)、うち52人が「看護師」であった。(表25)

表25 保健医療圏域別・職種別 正規看護職員定年退職者数

(単位：人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	197 (100.0)	1	4	138	54
広島	73 (37.1)	1	1	52	19
広島西	18 (9.1)	—	2	8	8
呉	26 (13.2)	—	—	17	9
広島中央	12 (6.1)	—	—	7	5
尾三	30 (15.2)	—	—	27	3
福山・府中	29 (14.7)	—	1	22	6
備北	9 (4.6)	—	—	5	4

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

(2) 病床規模別・職種別定年退職者数

病床規模別定年退職者数をみると、最も多かったのは「100～199床」で64人(32.5%)、次いで「500床以上」41人(20.8%)であった。(表26)

表26 病床規模別・職種別 正規看護職員定年退職者数

(単位：人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	197 (100.0)	1	4	138	54
99床以下	27 (13.7)	—	—	12	15
100～199床	64 (32.5)	—	—	38	26
200～299床	24 (12.2)	—	—	20	4
300～399床	31 (15.7)	1	1	22	7
400～499床	10 (5.1)	—	—	9	1
500床以上	41 (20.8)	—	3	37	1

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

3) 新卒看護職員の離職者数・離職率

新卒看護職員の離職者数は110人、離職率は9.9%であった。保健医療圏域別にみると、離職率が最も高かったのは「尾三」で14.5%であった。最も低かったのは「広島西」で5.8%であった。(表27-①)

病床規模別にみると、離職率が最も高かったのは「200～299床」で16.4%であった。最も低かったのは「500床以上」で6.4%であった。(表27-②)

表27-① 保健医療圏域別 正規看護職員新卒離職者数・離職率

(単位：人(%))

区分	計 (離職率)	広島	広島西	呉	広島 中央	尾三	福山・ 府中	備北
新卒採用者数	1,106	541	120	141	49	55	166	34
新卒離職者数	110	52	7	12	7	8	22	2
離職率(%)	(9.9)	(9.6)	(5.8)	(8.5)	(14.3)	(14.5)	(13.3)	(5.9)

表27-② 病床規模別・職種別 正規看護職員新卒離職者数・離職率

(単位：人(%))

区分	計 (離職率)	99床以 下	100～ 199床	200～ 299床	300～ 399床	400～ 499床	500床 以上
新卒採用者数	1,106	35	247	140	166	128	390
新卒離職者数	110	5	36	23	12	9	25
離職率(%)	(9.9)	(14.3)	(14.6)	(16.4)	(7.2)	(7.0)	(6.4)

4) 定年退職及び新卒離職以外の離職者数

(1) 保健医療圏域別・職種別定年退職・新卒離職以外の離職者数

保健医療圏域別離職者数をみると、最も多かったのは「広島」781人(46.3%)、うち672人が「看護師」であった。(表28)

表28 保健医療圏域別・職種別 定年退職・新卒離職以外の離職者数

(単位：人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	1,686 (100.0)	8	26	1,440	212
広島	781 (46.3)	4	13	672	92
広島西	131 (7.8)	1	—	124	6
呉	225 (13.3)	—	6	186	33
広島中央	135 (8.0)	—	3	110	22
尾三	91 (5.4)	2	—	70	19
福山・府中	280 (16.6)	1	4	241	34
備北	43 (2.6)	—	—	37	6

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

(2) 病床規模別・職種別定年退職・新卒離職以外の離職者数

病床規模別離職者数をみると、最も多かったのは「100～199床」483人(28.6%)、うち389人が「看護師」であった。次いで「500床以上」352人(20.9%)、うち341人が「看護師」であった。(表29)

表29 病床規模別・職種別 定年退職・新卒離職以外の離職者数

(単位：人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	1,686 (100.0)	8	26	1,440	212
99床以下	231 (13.7)	2	3	170	56
100～199床	483 (28.6)	3	—	389	91
200～299床	224 (13.3)	1	3	183	37
300～399床	247 (14.7)	1	5	222	19
400～499床	149 (8.8)	—	5	135	9
500床以上	352 (20.9)	1	10	341	—

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

5) 正規以外看護職員離職者数

(1) 保健医療圏域別・職種別離職者数・離職率

離職者数は380人で、離職率は15.7%であった。保健医療圏域別にみると、離職者数が最も多かったのは「広島」で182人、離職率が最も高かったのも「広島」で17.4%であった。(表30)

表30 保健医療圏域別・職種別 正規以外看護職員離職者数・離職率

(単位：人(%))

区分	計 (離職率)	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	380 (15.7)	—	9	271	100
広島	182 (17.4)	—	—	134	48
広島西	15 (17.3)	—	1	9	5
呉	43 (15.5)	—	1	35	7
広島中央	21 (10.0)	—	—	15	6
尾三	37 (13.9)	—	1	28	8
福山・府中	68 (16.1)	—	2	41	25
備北	14 (13.3)	—	4	9	1

注 離職者数は契約期間満了退職者を含む

(2) 病床規模別・職種別離職者数・離職率

病床規模別にみると、離職者数が最も多かったのは「100～199床」で135人であった。離職率が最も高かったのは「500床以上」で18.1%であった。(表31)

表31 病床規模別・職種別 正規以外看護職員離職者数・離職率

(単位：人(%))

区分	計 (離職率)	保健師	助産師	看護師	准看護師
計	380 (15.7)	—	9	271	100
99床以下	56 (14.7)	—	—	35	21
100～199床	135 (15.1)	—	—	79	56
200～299床	78 (17.7)	—	—	65	13
300～399床	36 (14.2)	—	5	29	2
400～499床	15 (13.5)	—	—	9	6
500床以上	60 (18.1)	—	4	54	2

注 離職者数は契約期間満了退職者を含む

8 特別休暇等の取得状況

令和2年度の正規看護職員の特別休暇等取得状況は次のとおりである。

1) 育児休業取得職員数

(1) 保健医療圏域別・職種別育児休業取得職員数

令和3年3月31日現在の育児休業取得職員数は1,224人(5.8%)であった。保健医療圏域別にみると、最も多かったのは「広島」640人、うち602人が「看護師」であった。次いで「福山・府中」211人、うち199人が「看護師」であった。(表32)

表32 保健医療圏域別・職種別 育児休業取得職員数(実人員)

(単位:人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
平均正規看護職員数	21,253.5 (100.0)	95.0 (0.4)	488.0 (2.3)	18,659.0 (87.8)	2,011.5 (9.5)
計	1,224 (5.8)	7 (0.0)	40 (0.2)	1,138 (5.4)	39 (0.2)
広島	640 (3.0)	2	21	602	15
広島西	86 (0.4)	—	—	83	3
呉	102 (0.5)	2	4	88	8
広島中央	62 (0.3)	—	4	55	3
尾三	77 (0.4)	3	2	70	2
福山・府中	211 (1.0)	—	5	199	7
備北	46 (0.2)	—	4	41	1

注1 令和3年3月31日現在の実績

注2 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

(2) 病床規模別・職種別育児休業取得職員数

病床規模別の育児休業取得職員数をみると、最も多かったのは「500床以上」492人、うち475人が「看護師」であった。次いで「100～199床」230人、うち202人が「看護師」であった。(表33)

表33 病床規模別・職種別 育児休業取得職員数(実人員)

(単位:人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
平均正規看護職員数	21,253.5 (100.0)	95.0 (0.4)	488.0 (2.3)	18,659.0 (87.8)	2,011.5 (9.5)
計	1,224 (5.8)	7 (0.0)	40 (0.2)	1,138 (5.4)	39 (0.2)
99床以下	84 (0.4)	1	4	70	9
100～199床	230 (1.1)	3	—	202	25
200～299床	171 (0.8)	—	3	164	4
300～399床	180 (0.8)	3	12	164	1
400～499床	67 (0.3)	—	4	63	—
500床以上	492 (2.3)	—	17	475	—

注1 令和3年3月31日現在の実績

注2 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

2) 介護休業取得職員数

(1) 保健医療圏域別・職種別介護休業取得職員数

令和3年3月31日現在の介護休業取得職員数は10人(0.0%)であった。保健医療圏域別にみると、最も多かったのは「広島」4人ですべて「看護師」であった。(表34)

表34 保健医療圏域別・職種別 介護休業取得職員数(実人員)

(単位:人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
平均正規看護職員数	21,253.5 (100.0)	95.0 (0.4)	488.0 (2.3)	18,659.0 (87.8)	2,011.5 (9.5)
計	10 (0.0)	—	—	9 (0.0)	1 (0.0)
広島	4 (0.0)	—	—	4	—
広島西	—	—	—	—	—
呉	1 (0.0)	—	—	—	1
広島中央	—	—	—	—	—
尾三	2 (0.0)	—	—	2	—
福山・府中	3 (0.0)	—	—	3	—
備北	—	—	—	—	—

注1 令和3年3月31日現在の実績

注2 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

(2) 病床規模別・職種別介護休業取得職員数

病床規模別の介護休業取得職員数をみると、最も多かったのは「500床以上」で、3人すべて「看護師」であった。(表35)

表35 病床規模別・職種別 介護休業取得職員数(実人員)

(単位:人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
平均正規看護職員数	21,253.5 (100.0)	95.0 (0.4)	488.0 (2.3)	18,659.0 (87.8)	2,011.5 (9.5)
計	10 (0.0)	—	—	9 (0.0)	1 (0.0)
99床以下	1 (0.0)	—	—	1	—
100~199床	2 (0.0)	—	—	1	1
200~299床	2 (0.0)	—	—	2	—
300~399床	2 (0.0)	—	—	2	—
400~499床	—	—	—	—	—
500床以上	3 (0.0)	—	—	3	—

注1 令和3年3月31日現在の実績

注2 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

3) 時間短縮勤務職員数

(1) 保健医療圏域別・職種別時間短縮勤務職員数

令和3年3月31日現在の時間短縮勤務職員数は906人(4.3%)であった。保健医療圏域別にみると、最も多かったのは「広島」537人、うち516人が「看護師」であった。次いで「福山・府中」125人、うち118人が「看護師」であった。(表36)

表36 保健医療圏域別・職種別 時間短縮勤務中の職員数(実人員)

(単位:人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
平均正規看護職員数	21,253.5 (100.0)	95.0 (0.4)	488.0 (2.3)	18,659.0 (87.8)	2,011.5 (9.5)
計	906 (4.3)	4 (0.0)	17 (0.1)	855 (4.0)	30 (0.1)
広島	537 (2.5)	2	12	516	7
広島西	61 (0.3)	—	1	59	1
呉	70 (0.3)	1	3	57	9
広島中央	26 (0.1)	—	—	24	2
尾三	50 (0.2)	1	1	45	3
福山・府中	125 (0.6)	—	—	118	7
備北	37 (0.2)	—	—	36	1

注1 令和3年3月31日現在の実績

注2 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

(2) 病床規模別・職種別時間短縮勤務職員数

病床規模別に時間短縮勤務職員数をみると、最も多かったのは「500床以上」353人、うち338人が「看護師」であった。次いで「100～199床」188人、うち169人が「看護師」であった。(表37)

表37 病床規模別・職種別 時間短縮勤務中の職員数(実人員)

(単位:人(%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
平均正規看護職員数	21,253.5 (100.0)	95.0 (0.4)	488.0 (2.3)	18,659.0 (87.8)	2,011.5 (9.5)
計	906 (4.3)	4 (0.0)	17 (0.1)	855 (4.0)	30 (0.1)
99床以下	53 (0.2)	1	—	43	9
100～199床	188 (0.9)	—	—	169	19
200～299床	130 (0.6)	2	1	127	—
300～399床	131 (0.6)	1	1	127	2
400～499床	51 (0.2)	—	—	51	—
500床以上	353 (1.7)	—	15	338	—

注1 令和3年3月31日現在の実績

注2 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

4) 病休・休職等職員数

(1) 保健医療圏域別・職種別病休・休職等職員数

病休・休職等職員数は 625 人(2.9%)であった。保健医療圏域別にみると、最も多かったのは「広島」270 人、うち 240 人が「看護師」であった。次いで「福山・府中」181 人、うち 169 人が「看護師」であった。(表 38)

表 38 保健医療圏域別・職種別 病休・休職等職員数 (実人員)

(単位：人 (%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
平均正規看護職員数	21,253.5 (100.0)	95.0 (0.4)	488.0 (2.3)	18,659.0 (87.8)	2,011.5 (9.5)
計	625 (2.9)	1 (0.0)	12 (0.1)	558 (2.6)	54 (0.3)
広島	270 (1.3)	—	6	240	24
広島西	23 (0.1)	—	—	21	2
呉	41 (0.2)	—	2	35	4
広島中央	53 (0.2)	—	—	47	6
尾三	41 (0.2)	—	2	34	5
福山・府中	181 (0.9)	—	2	169	10
備北	16 (0.1)	1	—	12	3

注 割合 (%) の合計は四捨五入のため 100%にならない

(2) 病床規模別・職種別病休・休職等職員数

病床規模別の病休・休職等職員数をみると、最も多かったのは「500 床以上」226 人、うち 220 人が「看護師」であった。次いで「100～199 床」128 人、うち 107 が「看護師」であった。(表 39)

表 39 病床規模別・職種別 病休・休職等職員数 (実人員)

(単位：人 (%))

区分	計	保健師	助産師	看護師	准看護師
平均正規看護職員数	21,253.5 (100.0)	95.0 (0.4)	488.0 (2.3)	18,659.0 (87.8)	2,011.5 (9.5)
計	625 (2.9)	1 (0.0)	12 (0.1)	558 (2.6)	54 (0.3)
99 床以下	50 (0.2)	—	—	31	19
100～199 床	128 (0.6)	—	1	107	20
200～299 床	68 (0.3)	—	2	57	9
300～399 床	84 (0.4)	1	2	77	4
400～499 床	69 (0.3)	—	1	66	2
500 床以上	226 (1.1)	—	6	220	—

注 割合 (%) の合計は四捨五入のため 100%にならない

9 母性保護、育児・介護休業に関する制度について

1) 制度の導入・利用について

(1) 母性保護制度の導入・利用の有無

母性保護制度を導入しているかについて「はい」と回答した病院は167病院(86.5%)であった。

「はい」と回答した病院のうち、最も多く導入されている制度は「夜勤・当直免除」で、156病院であった。最も多く利用があった制度も「夜勤・当直免除」で、130病院であった。(表40)

表40 母性保護制度の導入の有無
(単位：病院(%))

区分	病院数	
計	193	(100.0)
※はい	167	(86.5)
いいえ	26	(13.5)

※「はい」の内容(複数回答)

制 度	導入がある	利用がある
夜勤・当直免除	156	130
夜勤・当直日数減	151	114
超過勤務免除	127	78
変形労働時間の適用除外	81	42
時差通勤	79	30
つわり休暇	51	16
通院休暇 (保健指導・検診受診時間の確保等)	93	50
配置転換	118	55
「その他導入している制度の具体的内容」 <ul style="list-style-type: none"> ・ WLB休暇でつわり、通院に対応。 ・ 短日制度、1週間のうち1日短日休暇あり。 ・ 生理休暇。 ・ 有給休暇で対応。(2施設) ・ 制度はないが個別の申し出により対応している。(5施設) ・ 危険有害業務の就業制限。 ・ 業務軽減。 ・ 休息、補食。 ・ 子供が4才～6才まで夜勤は月に2交代で2回まで。 ・ ベビーシッター利用に対する助成・割引。 ・ 医師の指示に基づいて対応。(2施設) 		

(2) 育児休業制度の導入・利用の有無

育児休業制度を導入しているかについて「はい」と回答した病院は192病院(99.5%)であった。最も多く導入されている制度は「育児休業」で、192病院であった。最も多く利用があった制度も「育児休業」で、179病院であった。(表41)

表41 育児休業制度の導入の有無
(単位：病院(%))

区分	病院数	
計	193	(100.0)
※はい	192	(99.5)
いいえ	1	(0.5)

※「はい」の内容(複数回答)

制 度	導入がある	利用がある
育児休業	192	179
子の看護休暇	174	121
所定外労働の制限	142	79
時間外労働制限	145	80
深夜業の制限	162	119
短時間勤務	179	138
フレックスタイム制	30	11
始業・終業時間の繰上げ・繰下げ	97	68
託児施設の設置運営	97	94
<p>「その他導入している制度の具体的内容」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 再採用制度として、育児を理由として退職した正社員をその理由が解消した後、再び正社員として再採用する。 ・ 月極保育補助。 ・ 病児保育補助。 ・ 学童保育補助。 ・ ベビーシッター補助。 ・ その都度話をし、働きやすいように勤務調整を行っている。 ・ 2016年くるみん認定施設。 ・ 新型コロナウイルス関連による休業措置。 ・ 保育時間。 ・ 妻が出産する場合の休暇。 ・ 男性看護師の育児休業。 ・ 育児参加のための休暇。 ・ 職場復帰プログラム。 ・ 育児時間制度：授乳時間1日につき1回30分以内を2回(1才未満)。 		

(3) 介護休業制度の導入・利用の有無

介護休業制度を導入しているかについて「はい」と回答した病院は183病院(94.8%)であった。「はい」と回答した病院のうち、最も多く導入されている制度は「介護休暇」で178病院であった。最も多く利用があった制度も「介護休暇」で72病院であった。(表42)

表42 介護休業制度の導入の有無
(単位：病院(%))

区分	病院数	
計	193	(100.0)
※はい	183	(94.8)
いいえ	10	(5.2)

※「はい」の内容(複数回答)

制 度	導入がある	利用がある
介護休業	175	67
介護休暇	178	72
時間外労働の制限	128	30
深夜業の制限	127	39
短時間勤務	126	34
フレックスタイム制	21	2
始業・終業時間の繰上げ・繰下げ	73	21
介護サービス費用の助成	15	4
「その他導入している制度の具体的内容」 <ul style="list-style-type: none"> ・ その都度、働きやすいように工夫し、調整を行っている。 ・ リフレッシュ有休制度(3日連続有休取得の促進)。 ・ 早出、遅出勤務。 		

10 研修体制やキャリアアップに関する支援

1) 教育研修体制

「継続教育研修プログラム」が「あり」は 138 病院(71.5%)であった。病床規模別にみると「400～499 床」「500 床以上」ではすべての病院が「あり」であった。(表 43-①)

「看護部門における教育研修責任者の配置」が「あり」は 151 病院(78.2%)であった。病床規模別にみると「400～499 床」「500 床以上」ではすべての病院が「あり」であった。(表 43-②)

「病棟・外来などでの教育担当者の配置」が「あり」は 154 病院(79.8%)であった。病床規模別にみると「400～499 床」「500 床以上」ではすべての病院が「あり」であった。(表 43-③)

「新規採用者の教育研修計画」を対象者別にみると「新卒採用者」で「あり」は 165 病院(85.5%), うち「厚労省のガイドラインに沿った研修体制」が「あり」は 125 病院(64.8%)であった。「既卒採用者」で「あり」は 145 病院(75.1%), 「看護補助者」で「あり」は 156 病院(80.8%)であった。病床規模別にみると「新卒採用者」で「400～499 床」「500 床以上」ではすべての病院が「あり」, 「既卒採用者」で「400～499 床」ではすべての病院が「あり」, 「看護補助者」で「400～499 床」「500 床以上」ではすべての病院が「あり」であった。(表 43-④)

表 43-① 病床規模別継続教育研修プログラム

(単位：病院 (%))

区分	計	あり	なし
計	193 (100.0)	138 (71.5)	55 (28.5)
99 床以下	70 (36.3)	32	38
100～199 床	71 (36.8)	58	13
200～299 床	24 (12.4)	22	2
300～399 床	16 (8.3)	14	2
400～499 床	4 (2.1)	4	—
500 床以上	8 (4.1)	8	—

注 割合 (%) の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 43-② 病床規模別看護部門における教育研修責任者の配置

(単位：病院 (%))

区分	計	あり			なし
		計	専従	兼任	
計	193 (100.0)	151 (78.2)	17 (8.8)	134 (69.4)	42 (21.8)
99 床以下	70 (36.3)	44	1	43	26
100～199 床	71 (36.8)	57	1	56	14
200～299 床	24 (12.4)	23	1	22	1
300～399 床	16 (8.3)	15	5	10	1
400～499 床	4 (2.1)	4	2	2	—
500 床以上	8 (4.1)	8	7	1	—

注 割合 (%) の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 43-③ 病床規模別病棟・外来などでの教育担当者の配置

(単位：病院 (%))

区分	計	あり			なし
		計	専従	兼任	
計	193 (100.0)	154 (79.8)	— —	154 (79.8)	39 (20.2)
99床以下	70 (36.3)	48	—	48	22
100～199床	71 (36.8)	58	—	58	13
200～299床	24 (12.4)	22	—	22	2
300～399床	16 (8.3)	14	—	14	2
400～499床	4 (2.1)	4	—	4	—
500床以上	8 (4.1)	8	—	8	—

注 割合 (%) の合計は四捨五入のため 100%にならない

表 43-④ 病床規模別新規採用者の教育研修計画

(単位：病院 (%))

区分	計	新卒採用者				既卒採用者		看護補助者	
		計	あり		なし	あり	なし	あり	なし
			厚労省の ガイドラインに 沿った研修体制						
			あり	なし					
計	193 (100.0)	165 (85.5)	125 (64.8)	40 (20.7)	28 (14.5)	145 (75.1)	48 (24.9)	156 (80.8)	36 (18.7)
99床以下	70 (36.3)	50	26	24	20	49	21	49	20
100～199床	71 (36.8)	64	53	11	7	56	15	59	12
200～299床	24 (12.4)	24	22	2	—	19	5	23	1
300～399床	16 (8.3)	15	12	3	1	11	5	13	3
400～499床	4 (2.1)	4	4	—	—	4	—	4	—
500床以上	8 (4.1)	8	8	—	—	6	2	8	—

注 割合 (%) の合計は四捨五入のため 100%にならない

2) キャリアアップのための支援

(1) 進学支援の有無

「大学，大学院等」への進学支援が「あり」は82病院(42.5%)であった。「看護師養成所(通信制含む)」への進学支援が「あり」は135病院(69.9%)であった。

「あり」の内容をみると、「大学，大学院等」，「看護師養成所(通信制含む)」とも「勤務調整」が最も多かった。次いで「看護師養成所(通信制含む)」では「奨学金制度」が多かった。(表44)

表44 進学支援の有無

(単位：病院(%))

区分	計	※あり	なし
大学，大学院等	193 (100.0)	82 (42.5)	111 (57.5)
看護師養成所 (通信制含む)	193 (100.0)	135 (69.9)	58 (30.1)

※「あり」の内容(複数回答)

区分	奨学金 制度	休職制度	勤務調整	代替職員 の配置	旅費の 援助	授業料の 援助
大学，大学院等	26	30	54	5	8	7
看護師養成所 (通信制含む)	78	28	104	2	4	21

(2) 資格取得の支援の有無

「看護管理者資格取得」の支援が「あり」は142病院(73.6%)、「専門看護師資格取得」の支援が「あり」は78病院(40.4%)、「認定看護師資格取得」の支援が「あり」は118病院(61.1%)、「特定行為研修」の支援が「あり」は79病院(40.9%)「国内外留学」の支援が「あり」は23病院(11.9%)であった。

「あり」の内容をみると、各資格取得では「勤務調整」が最も多かった。次いで「授業料の援助」、「旅費の援助」の支援が多かった。(表45)

表 45 資格取得の支援の有無

(単位：病院(%))

区分	計	※あり	なし
看護管理者	193 (100.0)	142 (73.6)	51 (26.4)
専門看護師	193 (100.0)	78 (40.4)	115 (59.6)
認定看護師	193 (100.0)	118 (61.1)	75 (38.9)
特定行為研修	193 (100.0)	79 (40.9)	114 (59.1)
国内外留学	193 (100.0)	23 (11.9)	170 (88.1)

※「あり」の内容(複数回答)

区分	奨学金制度	休職制度	勤務調整	代替職員の配置	旅費の援助	授業料の援助
看護管理者	9	13	118	1	78	96
専門看護師	11	23	66	5	31	33
認定看護師	21	35	90	9	71	75
特定行為研修	8	20	67	5	42	49
国内外留学	2	10	16	1	3	2

11 働きやすい職場づくりのための取り組み

1) 働きやすい職場づくりを進めていく上での問題

働きやすい職場づくりを進めていく上での問題について最も多かったのは「代替職員の確保」120病院(22.5%)、次いで「制度を利用していない職員との不公平感」65病院(12.2%)であった。順位1では「代替職員の確保」が最も多く、順位2では「制度を利用していない職員との不公平感」が最も多く、順位3では「業務が忙しく取り組む余裕がない」が最も多かった。(表46)

表46 働きやすい職場づくりを進めていく上での問題

(単位：病院(%))

区分	計	順位1	順位2	順位3
計	534 (100.0)	192 (100.0)	178 (100.0)	164 (100.0)
進め方がわからない	18 (3.4)	5 (2.6)	7 (3.9)	6 (3.7)
相談先がわからない	12 (2.2)	4 (2.1)	1 (0.6)	7 (4.3)
効果が不透明	30 (5.6)	6 (3.1)	7 (3.9)	17 (10.4)
代替職員の確保	120 (22.5)	80 (41.7)	27 (15.2)	13 (7.9)
制度を利用していない職員との不公平感	65 (12.2)	17 (8.9)	33 (18.5)	15 (9.1)
保育サービスの不足	42 (7.9)	14 (7.3)	14 (7.9)	14 (8.5)
職員が制度を利用しない	10 (1.9)	2 (1.0)	4 (2.2)	4 (2.4)
業務が忙しく取り組む余裕がない	55 (10.3)	16 (8.3)	15 (8.4)	24 (14.6)
院内で制度を利用しにくい雰囲気がある	11 (2.1)	4 (2.1)	4 (2.2)	3 (1.8)
コストの増加	45 (8.4)	11 (5.7)	21 (11.8)	13 (7.9)
業務効率の悪化	50 (9.4)	8 (4.2)	19 (10.7)	23 (14.0)
院内でワークライフバランスへの理解が進んでいない	19 (3.6)	2 (1.0)	7 (3.9)	10 (6.1)
院長等トップの理解がない	23 (4.3)	9 (4.7)	9 (5.1)	5 (3.0)
特に問題はない	16 (3.0)	8 (4.2)	6 (3.4)	2 (1.2)
その他	18 (3.4)	6 (3.1)	4 (2.2)	8 (4.9)
「その他」の具体的内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 報告連絡相談，コミュニケーション不足。 ・ 人事評価制度がない。 ・ クラーク業務など他職種の業務負担がある。 ・ 管理者とスタッフの受け止め方の違い。 ・ 事務部門の理解不足。 ・ 子育てで支援制度が終了したら退職する人がある。 ・ WLBへの権利意識が高くなり，同じ部署で働く同僚への配慮の低下。 ・ 他職種連携が悪い。(2施設) ・ 夜勤者の確保。(2施設) ・ 人員不足，人材不足。(2施設) 				

注 割合(%)の合計は四捨五入のため100%にならない

(1) 保健医療圏域別働きやすい職場づくりを進めていく上での問題

働きやすい職場づくりを進めていく上での問題を保健医療圏域別にみると、「広島」「広島西」「呉」「広島中央」「尾三」「福山・府中」「備北」のすべてが「代替職員の確保」が最も多かった。(表 47)

表 47 保健医療圏域別働きやすい職場づくりを進めていく上での問題

(単位：病院 (%))

区分	計	広島	広島西	呉	広島中央	尾三	福山・府中	備北
計	534 (100.0)	200 (100.0)	27 (100.0)	71 (100.0)	48 (100.0)	54 (100.0)	110 (100.0)	24 (100.0)
進め方がわからない	18 (3.4)	5 (2.5)	— —	2 (2.8)	— —	3 (5.6)	5 (4.5)	3 (12.5)
相談先がわからない	12 (2.2)	2 (1.0)	1 (3.7)	1 (1.4)	1 (2.1)	2 (3.7)	3 (2.7)	2 (8.3)
効果が不透明	30 (5.6)	13 (6.5)	1 (3.7)	4 (5.6)	3 (6.3)	3 (5.6)	6 (5.5)	— —
代替職員の確保	120 (22.5)	41 (20.5)	7 (25.9)	16 (22.5)	13 (27.1)	12 (22.2)	23 (20.9)	8 (33.3)
制度を利用していない職員との不公平感	65 (12.2)	26 (13.0)	2 (7.4)	7 (9.9)	8 (16.7)	9 (16.7)	12 (10.9)	1 (4.2)
保育サービスの不足	42 (7.9)	21 (10.5)	2 (7.4)	6 (8.5)	5 (10.4)	3 (5.6)	5 (4.5)	— —
職員が制度を利用しない	10 (1.9)	4 (2.0)	1 (3.7)	2 (2.8)	— —	1 (1.9)	2 (1.8)	— —
業務が忙しく取り組む余裕がない	55 (10.3)	18 (9.0)	2 (7.4)	11 (15.5)	4 (8.3)	5 (9.3)	11 (10.0)	4 (16.7)
院内で制度を利用しにくい雰囲気がある	11 (2.1)	2 (1.0)	— —	5 (7.0)	1 (2.1)	1 (1.9)	2 (1.8)	— —
コストの増加	45 (8.4)	16 (8.0)	3 (11.1)	4 (5.6)	7 (14.6)	6 (11.1)	8 (7.3)	1 (4.2)
業務効率の悪化	50 (9.4)	18 (9.0)	5 (18.5)	6 (8.5)	2 (4.2)	4 (7.4)	12 (10.9)	3 (12.5)
院内でワークライフバランスへの理解が進んでいない	19 (3.6)	4 (2.0)	1 (3.7)	4 (5.6)	2 (4.2)	2 (3.7)	5 (4.5)	1 (4.2)
院長等トップの理解がない	23 (4.3)	12 (6.0)	— —	3 (4.2)	1 (2.1)	1 (1.9)	6 (5.5)	— —
特に問題はない	16 (3.0)	8 (4.0)	1 (3.7)	— —	— —	1 (1.9)	5 (4.5)	1 (4.2)
その他	18 (3.4)	10 (5.0)	1 (3.7)	— —	1 (2.1)	1 (1.9)	5 (4.5)	— —

注 割合 (%) の合計は四捨五入のため 100%にならない

(2) 病床規模別働きやすい職場づくりを進めていく上での問題

病床規模別にみると、「99床以下」「100～199床」「200～299床」「300～399床」では「代替職員の確保」が最も多く、「400～499床」では「保育サービスの不足」が最も多く、「500床以上」では「制度を利用していない職員との不公平感」が最も多かった。(表48)

表48 病床規模別働きやすい職場づくりを進めていく上での問題

(単位：病院 (%))

区分	計	99床以下	100～199床	200～299床	300～399床	400～499床	500床以上
計	534 (96.6)	199 (97.0)	196 (96.4)	64 (92.2)	41 (100.0)	10 (100.0)	24 (100.0)
進め方がわからない	18 (3.4)	9 (4.5)	5 (2.6)	— —	4 (9.8)	— —	— —
相談先がわからない	12 (2.2)	7 (3.5)	2 (1.0)	1 (1.6)	2 (4.9)	— —	— —
効果が不透明	30 (5.6)	10 (5.0)	12 (6.1)	3 (4.7)	3 (7.3)	1 (10.0)	1 (4.2)
代替職員の確保	120 (22.5)	35 (17.6)	50 (25.5)	18 (28.1)	10 (24.4)	2 (20.0)	5 (20.8)
制度を利用していない職員との不公平感	65 (12.2)	15 (7.5)	26 (13.3)	10 (15.6)	5 (12.2)	2 (20.0)	7 (29.2)
保育サービスの不足	42 (7.9)	15 (7.5)	15 (7.7)	1 (1.6)	2 (4.9)	3 (30.0)	6 (25.0)
職員が制度を利用しない	10 (1.9)	5 (2.5)	4 (2.0)	1 (1.6)	— —	— —	— —
業務が忙しく取り組む余裕がない	55 (10.3)	24 (12.1)	19 (9.7)	9 (14.1)	2 (4.9)	— —	1 (4.2)
院内で制度を利用しにくい 雰囲気がある	11 (2.1)	8 (4.0)	2 (1.0)	1 (1.6)	— —	— —	— —
コストの増加	45 (8.4)	18 (9.0)	13 (6.6)	5 (7.8)	7 (17.1)	— —	2 (8.3)
業務効率の悪化	50 (9.4)	18 (9.0)	22 (11.2)	5 (7.8)	2 (4.9)	2 (20.0)	1 (4.2)
院内でワークライフバランスへの理解が進んでいない	19 (3.6)	12 (6.0)	5 (2.6)	2 (3.1)	— —	— —	— —
院長等トップの理解がない	23 (4.3)	12 (6.0)	10 (5.1)	— —	1 (2.4)	— —	— —
特に問題はない	16 (3.0)	5 (2.5)	4 (2.0)	3 (4.7)	3 (7.3)	— —	1 (4.2)
その他	18 (3.4)	6 (3.0)	7 (3.6)	5 (7.8)	— —	— —	— —

注 割合 (%) の合計は四捨五入のため 100%にならない

2) 制度の導入・利用について

看護職員の意見・要望を聞く取組みをしているかについて「取組んでいる」は 122 病院 (63.2%)、「特に取組みはしていないが、随時聞いている」は 71 病院 (36.8%)であった。

「取組んでいる」と回答した病院のうち、最も多く取組まれている制度は「上司との個別面接」で、頻度は「年 1 回以上」が最も多かった。(表 49)

表 49 働きやすい職場づくりのための取組み

(単位：病院 (%))

区分	病院数
計	193 (100.0)
※取組んでいる	122 (63.2)
特に取組みはしていないが、随時聞いている	71 (36.8)
取組んでいない	— —

※「取組んでいる」の内容 (複数回答)

(単位：病院)

区分	年 1 回以上	2～3 年に 1 回	※その他 () 内は内容
計	161	33	7
上司との個別面接	94	18	4
アンケート (満足度調査等)	67	15	3
意見箱の設置	64		
※その他 (具体的内容を記入)	23		
<p>「その他導入している制度の具体的内容」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相談窓口の設置と周知。(2 施設) ・ 1 回/年、離職、異動、キャリア等の意向調査を実施している。(2 施設) ・ 人事評価の面接。 ・ メンタルヘルス、ストレスチェック、ハラスメント等のアンケート調査を活用している。(2 施設) ・ 部長への意見を年 1 回看護部職員に記入してもらっている。 ・ 院内メンタルサポートによる支援。 ・ 労働組合との話し合い。 ・ 委員会や会議、懇談会等で職員の意見を聞き検討している。(4 施設) ・ 勤務シフトについて看護職へのアンケート調査を行い、勤務シフトの検討にとりかかっている。 ・ 広島県版自己点検ツール「チャレンジ」の活用。 ・ 院内各職場へのラウンドや看護管理者からの声かけにより相談しやすい環境を作っている。 ・ 個人面談を就職後 1 年間は定期的に複数回、その他は随時行っている。 			